



お乳餠伝説でおもてなし

昨年11月に、吾平山陵公園で開催された「吾平山上陵の四季を楽しむお茶会」。山陵の紅葉を楽しむに訪れた観光客らに、美里吾平コミュニティ協議会による、お茶とお菓子のおもてなしが行われました。

その時提供されたお菓子が、「おっぱいまんじゅう」という和菓子。開発したのは、吾平町商店街に店を構える「東京屋菓子店」です。店を営む渡辺平さんは、県外で和菓子作りを修行し、6年前に帰鹿した後、祖父から店を継ぎました。

「吾平山上陵がある吾平町内には、神話にちなんだ史跡が点在しています。ウガヤフキアエズノミコトがお乳の代わりに餠を食べて育ったという餠屋敷伝説にちなんだ菓子を作れないかと考え、5年前から試行錯誤を始めました」と渡辺さんは語ります。「初めはお菓子の名前に驚く方が多かったですが、その由来を説明すると、吾平の歴史に興味を持っていただけです。吾平のお土産としてだけでなく、安産祈願やお祝い事、父(乳)親へのプレゼントなどにも使っていました」

神話に想いを込めた「おっぱいまんじゅう」

誕生物語

地域の魅力を伝えたい

さらに、渡辺さんは語ります。「お菓子の魅力は、子どもから年配の方までが、一緒にお茶をしながら話せること。鹿屋のお茶との相性も抜群です。こ

れからも、お菓子をを通して地域の文化や魅力を伝えていきたいです」

人々を笑顔にさせる吾平の新銘菓から、目が離せません。



東京屋菓子店 (吾平町麓 3560-1) Tel.0994-58-6101

鵜戸神社をバックにほほえむ渡辺さん。おっぱいまんじゅうは、白いプリンを求肥で包んだお菓子で、外側に氷餅と羊かんがトッピングされている。吾平の新名物として、地域の期待も高い。

あめやしき 餠屋敷跡

神武天皇の父君「ウガヤフキアエズノミコト」が赤ん坊の時、母「トヨタマヒメ」と別れてしまったが、現れた老女が母乳の代わりに餠を練り与え、育った屋敷跡と伝わる。

74年前の記憶を再現

「海軍タルト」

誕生物語



「と命令を受けたことから、「タルト」と呼ばれる新しい菓子を開発。出撃した隊員が、操縦かんを握りながら、もう片方の手を使って食べられるものでした。」

証言から再現

平和な時代が訪れると、「タルト」は作られなくなります。しかし、「隊員は機内でタルトを食べていた」という証言を聞いたことから、北村さんはその再現への挑戦を始めました。「当時のレシピは残って

菓子店と隊員との記憶

しつとりとした食感と控えめな甘さの餠が特徴の「海軍タルト」。一見、普通の焼き菓子にも見えますが、鹿屋の歴史を今に伝えるお菓子です。

戦時中、海軍御用達の菓子店として鹿屋基地に菓子を納めていたのが、「富久屋若松菓子店」(現・富久屋)。現在も店頭に立つ北村馨さんは、若松家の六女として生まれました。

終戦時まだ5歳だった北村さんですが、店を訪れる隊員の姿や、物干し竿を振って特攻機を見送る両親の姿などを覚えていると話します。北村さんは、戦争を二度とてはいけないという想いから、毎年4月に灯籠流しを開催し、戦争を語り継ぐ活動を続けてきました。



薩摩菓子処 富久屋 (本町4-13) Tel.0994-43-1211

で、市外での慰霊祭やお茶会などで提供されることもあるそうです。

富久屋の店内には、隊員の遺族から贈られた資料のほか、タルトを食べた人たちの感謝状などが飾られています。「お会いした事のない方からのお礼も届きます。想いが伝わったことがうれしいです」と北村さんは語ります。昔と今の鹿屋をつないでくれる、味わい深いお菓子です。

いまでもでしたが、基地で働いていた姉や当時の従業員の証言をもとに、半年ほどかけ再現しました」と北村さんは振り返ります。

そして平成28年4月、特攻隊員の遺族らを前に披露されると、全国から注目されました。